

# 2018年9月 月報

## 中学生などが酪農を体験

当センターは、酪農教育ファーム※の認証を受け、児童や生徒などを対象に酪農体験学習を実施しています。今月は、地元中学校の生徒 10 名や府内大学の学生 24 名を受け入れました。

体験学習では、畜産物から食品ができるまでについて、飼料作物の収穫見学、子牛のほ乳・成牛の搾乳体験、アイスクリーム作り実習を行いました。また、超音波診断装置で牛の胎児を観察し「命」を実感してもらいました。

学生からは、「畜産物が人の手で大切に作られていることがわかった」「教師になったら命の大切さを子供たちに教えたい」などの感想が寄せられました。

今後も酪農を通じた学びの場を提供していきます。

※酪農教育ファーム：食や仕事、いのちをテーマに教育現場と連携して酪農の作業を通じ、教育活動を行う牧場



牛舎の床掃除



ほ乳体験



牛乳を使ってアイスクリームづくり



超音波診断装置で牛の胎児を観察

畜産センター

## 親から子へ引き継がれる和牛の遺伝能力を分析しています

牛肉の品質や量は、性別、出荷月齢、飼育管理などの環境要因だけでなく、母牛や父牛から受け継いだ遺伝的能力も大きく影響します。

当センターでは毎年9月に、肉の質や量に関する育種価※1 6項目について評価を行っています。

得られた育種価は、繁殖農家が父牛と母牛の組み合わせを決める際の参考にされています。

また、子牛セリ市の名簿には、出場子牛の期待育種価※2 が表示され、肥育農家の購入の目安になっています。

※1 育種価：母牛や父牛から受け継いだ次の6項目の遺伝的能力を数値で表したもの

- ①枝肉重量（骨付き肉の量）、②ロース芯面積（ロース肉の量）、③バラ厚（バラ肉の量）、④皮下脂肪厚（皮下脂肪の量）、⑤歩留（骨なし肉の割合）、⑥脂肪交雑（サシの入り具合）

※2 子牛の期待育種価：父牛と母牛の育種価の平均値

No.	性別	生年月日	10月耳標	実況	系統			期待育種価
					父	母の父	母の母の父	
001	♂	1129.09.19	1514682195	0	本國種	本國種	本國種	A A B A
002	♂	1129.07.27	1514682157	1	本國種	本國種	本國種	A A B A
003	♂	1429.08.28	1520024447	1	本國種	本國種	本國種	A A B A
004	♂	1429.08.31	1333747488	2	本國種	本國種	本國種	B A B A
005	♂	1429.09.01	1548610814	3	本國種	本國種	本國種	B A B A

注) 期待育種価の表示：「A」は育種価分布の上位1/4以上、「B」は上位1/2以上  
「枝」枝肉重量、「芯」ロース芯面積、「皮」皮下脂肪厚、「脂」脂肪交雑

子牛セリ市名簿における育種価の活用例

畜産センター

## 平成 30 年度の牧草の収穫・調整終了

当场には、55ha（甲子園 14 個分）の採草放牧地があり、うち約 20ha の採草地で、オーチャードグラスなど 3 種類のイネ科牧草を混合して同時に播種し、栽培しています。牧草は年 3 回（5 月、7 月、9 月）収穫し、ロール状にした後、ロールボールサイレージ（約 400kg/個）に調整して、飼養する牛に通年給与します。

今年は、6 月の害虫による被害、7、8 月の高温小雨による夏枯れと厳しい栽培（生産）条件が続きましたが、適期防除や肥培管理などにより、平年（約 500 個）に近い 436 個（174t）生産することができました。

今後は、来季の収量安定と品質向上を図るため、優良品種を用いた草地更新※に取り組んでいきます。

※草地更新：継続して牧草を栽培し続けると、収量が減少し、嗜好性が悪化するため、優良品種を播種し、草地の植生を改善する。



牧草のロール作業



牧草のラッピング作業



乳酸発酵し、ロールボールサイレージに調整

畜産センター